

安心・安全な学校づくりをめざして

新年度が始まり、1ヶ月が経ちました。GWも終わり、子供たち・教職員共々、エンジン全開といったところです。引き続き、皆様からのご支援・ご協力、よろしくお願いいたします。

さて、この「校長室だより」の趣旨について説明させていただきます。この校長室だよりは、校長室より「学校の考え方や状況」を保護者の皆様に知らせ、ご理解いただくことを目的に発行いたします。月1回のペースで発行する「学校だより」とは目的も発行の仕方も違います。必要な時に学校が提供すべき必要な内容を「校長室だより」にてお知らせいたします。したがって、不定期での発行となります。ご理解のほどよろしくお願いいたします。

この時期になると、ニュースなどで話題になるのが「5月病」です。4月の環境の変化（入学、進級、就職、転勤などなど）による緊張が、GW明けの5月に緩むことで心身に現れる不調の通称です。「病」と付いていますが、正式な病名ではありません。やる気が出ない、眠れない、体がだるいといった症状が現れるのが特徴のようです。

環境への慣れ方は、個人差があります。これは、学習の進め方や理解の仕方、友達とのかかわりなど、学校生活全般にいえることです。個人差には「早い・遅い」のちがいががあります。これは個性と呼べるもので、一概に「早い」ことが良い「遅い」ことが悪いとは言えないものです。様々な違いのある子供たちの成長について、親をはじめとした周りにいる大人がじっくりゆとりをもって見守ることが大切です。子供たちがどのような支援を必要としているのかを見極め、必要なタイミングで必要な支援を行う、大変難しいことなのですが、一番大切なことであると考えます。口を出しすぎる・関心がなさすぎる、どちらも子供たちの成長にはあまりいい影響は与えないようです。『目・手・口は離しても心は離さない』ことが青少年期にとっては大事であると言われています。では、小学生期では、どの段階で目や手、口を離すのか、これはその子の成長具合だと思います。だからこそ、じっくりと見守ることが大切なのではないのでしょうか。

とはいえ、時には心配の種が膨らみ、いてもたってもいられなくなることがあるかもしれません。これは、子供を大切に思う親なら当然のことです。そのようなときに、いろいろな角度から幅広く子供を見て、じっくりと成長を考えることができるよう、共に考えられる学校でありたいと考えています。

このような意図で、学校では35「教育相談」が位置付けられ、担当が置かれています。今回の校長室だよりであらためて皆さんに担当をお知らせいたします。

☆☆教育相談窓口☆☆

支援教育コーディネーター 大隈 慶彦 *不在のときには、教頭：井上 美代子 教務主任：鍋田 徹

教育相談は、野川小教職員全員がいつでも行います。基本は担任が行いますが、子供たちの学校生活に関する悩み・不安など、相談の仕方やタイミングがわからないときなどは、遠慮なく、電話でも連絡帳でも構いませんので、コーディネーターまでご相談ください。校長室にもお気軽にご相談にいらしてください。よろしくお願いいたします。